

名 称 所 在	用 途 (令別表)	発 生 日 時 等	構 造・階 層 面 積	焼 損 程 度 (焼損面積) (延面積)	死 傷 者
(株)西武百貨店		昭和38年8月22日 出火12時56分ころ 覚知13時11分 覚知別 報知電話 鎮火20時35分	耐火 $\frac{8}{2}$ 建 7,250 m ² 延 69,350 m ²	全・半・部・小 10,250 m ² (15%)	死者 7名 傷者 216名 (204)
東京都豊島区 池袋東2-8	百貨店 (4)				

I 火災概要

① 概 要	この火災は、休店日を利用して店内の改築・消毒・殺虫等を業者に委託して行っているとき、一作業員の不注意から、引火性の薬剤に着火して急速に燃え広がり延焼拡大したもので、百貨店では一応の防火管理体制をとってはいたものの消防機関への通報がなされず消防隊の到着が遅れ、さらには濃煙と熱気のために7名の犠牲者と216名もの傷者を出すという惨事となった。						
② 階 別 状 況	階	床 面 積	焼損床面積	用途(売場)	在館者	死 者	避難設備等
		m ²	m ²		EV内 4		屋内階段 8箇所
	PH ₂	117.0					消 内
	PH ₁	284.4			12		自 連
	8	6,983.5	4,387	事務所・ホール	95		救助袋
	⑦	7,250.1	5,863	売 場・食 堂	76	7	3F~7F各2
	6	7,250.1		売 場	1		
	5	7,250.1		"	15		
	4	7,250.1		"			
	3	7,250.1		"	1		
	2	6,631.9		"	26		
	1	6,653.2		"	21		
	B1	7,159.6		"	2		
	B2	5,269.9		機 械 室	41		
合計					294	7	
③ 出 火 場 所	(階, 室, 部位, 可燃物状況, 居室・非居室, 在・不在) ○ 7階食堂前のエスカレータシャッター前の通路付近から出火 ○周囲には、補給用殺虫薬剤の缶及び噴霧器等が置かれ、その付近には消毒作業員と食堂店員、シャッター整備員等が17~18名いた。				④ 出 火 原 因	休店日を利用して7階食堂一帯では殺虫剤の噴霧作業を行っていたが、休憩中、煙草に火をつけたマッチ棒を床上に投げ捨てたため、補給の際にこぼした殺虫剤（危険物第四類第1石油類）に引火したもの	

⑤ 火 災 の 延 焼 経 路 等	(出火部位)	(出火部の拡大)	(上階への拡大)
	7階食堂前のエスカレータ前通路	引火性殺虫剤に着火し急激に延焼拡大して防水区画シャッターの一部開放された部分から他の売場等へ延焼した	7階窓から火炎が噴出し電光ニュース板を介して8階窓より内部へ延焼拡大した
7階食堂前の通路で引火性殺虫剤に着火したため、火炎は天井へ急激に延焼拡大し、グリル食堂の方へ延焼し西側窓から早期に火炎が噴出した。また、7階のスポーツ用品売場と北側食堂はいずれもシャッターが一部開放されていたため延焼していった。7階西側の窓から噴出した炎は、上部の電光ニュース板を介して8階の窓ガラスを破り、その輻射熱と窓上部からの火炎のため8階事務室内の天井へ燃え移り、さらにシャッターが一部開放されていた社員食堂や展示室へと延焼した。			

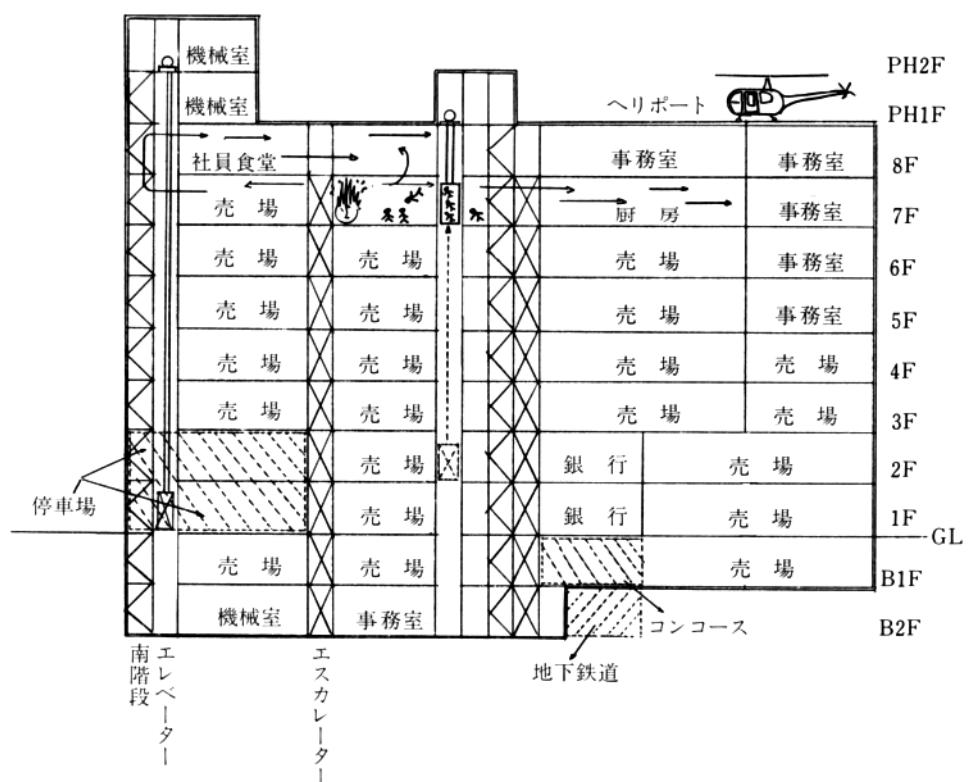
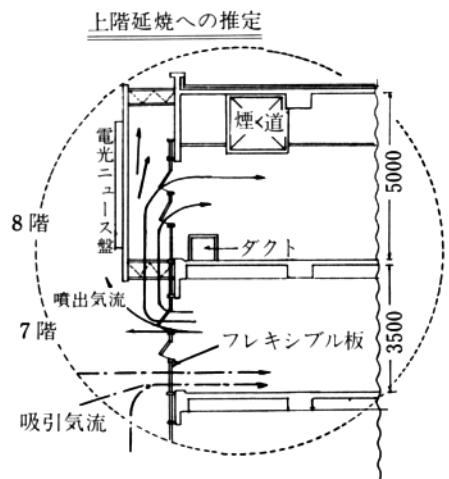
II 火災建物概要

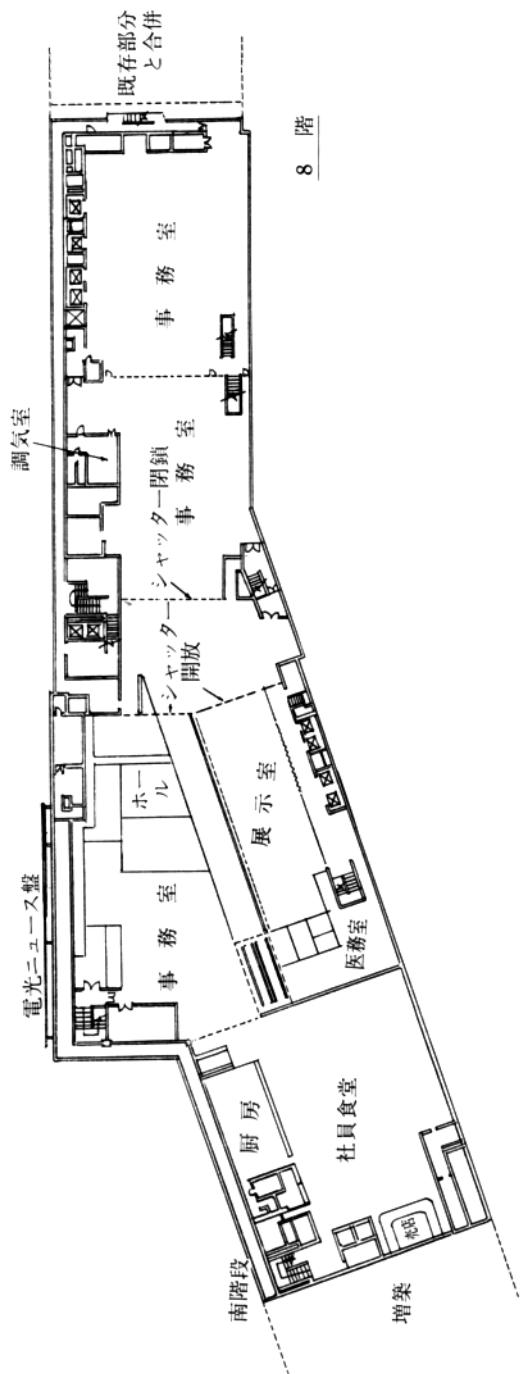
① 建 築	着工・竣工又は主たる改築等 (第1期) 昭和26年12月 日 (第5・6期) 昭和35年1月 日 (竣工)	② 豊 穴 の 状 況	③ 防 火 管 理 状 況
管 理 状 況	階 段 <input checked="" type="checkbox"/> ダクトスペース <input checked="" type="checkbox"/> エレベーター <input checked="" type="checkbox"/> パイプシャフト <input checked="" type="checkbox"/> エスカレータ <input checked="" type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/>	豊穴はそれぞれ防火戸又は防火シャッターにより区画されている。	<ul style="list-style-type: none"> ○防火管理者と保安課が中心となり、新入社員や防火責任者等に対し防火講習を行い、防火知識の普及と消防用設備の取扱い等の教育を行っている。消防訓練は年2回以上保安課長の指揮のもとに各売場ごとに実施している。 ○出入り業者に対しては、同店内規による作業時の注意事項を指示し、喫煙上の注意や消火器の使用方法等火災予防上の対策を講じていた。 ○出火当日は休店日のため、20名の保安課員により宿日直消防隊が編成され、各持場に分散して作業員の監視等を行っていた。
	④ 防 火 区 画 等	売場内は各階とも防火シャッターにより5区画に区画され、当日は休店日のため全て閉鎖されていたが、7階と8階は消毒作業や工事等のため開放されていた部分が多くかった。	消防用設備等は有効に維持管理されていたが、出火に際し、使用方法がわからなかったり、取扱いを誤ったりして効果的な使用はされなかった。

III 火災後の行動

① 発見状況	<ul style="list-style-type: none"> ○発見者 (行為者 (消毒作業員)) ○発見の動機 (発火音と火炎) ○発見後の行動 (たたき消そうとする) 		
	<p>消毒作業員Kはマッチを投げ捨てた直後、ボーンという異音で火炎を認め、休憩中の他の2人と共にたたき消したり、殺虫剤の入っている缶をどかそうとしたが、急激に燃え広がり、手のつけようがないほど拡大したので、Kは南階段の浴室付近で作業していた班長のNに知らせ、現場に引き返したが、火勢はすでに天井に燃え移りつつある状況であった。そのため、KとNは階段部分にあった非常用電話で保安課へ通報した。</p>		
② 通報状況	<p>通報した <input type="checkbox"/> 発見後約()分 <input checked="" type="checkbox"/> しない (国鉄職員が通報したもの)</p>		
	<p>百貨店側からの通報はなく、国鉄池袋駅員が、駅のホームにいたところ、西部百貨店の7階から黒煙が出ているのを発見して通報した(13時11分第1報)。 ※百貨店の保安課では受付員が7階の作業員からの非常電話を受け、119番にダイヤルしたが、通じなかつたためこれを放きした。また、他の係員はMM式火災報知機のボタンを押すことなく火点確認に急行してしまい、最後まで消防への通報はなされなかった。</p>		
③ 初期消火状況	<p><input checked="" type="checkbox"/> 消火した</p>	<p>成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input checked="" type="checkbox"/></p> <ul style="list-style-type: none"> ○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> 	<p>(理由又は状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○行為者のKは、他の2人と共に衣類でたたき消そうとしたが、危険物品(第1石油類)に着火したため急激に燃え広がって消火できなかった。 ○出火場所の近くで作業をしていた者達が、消火器や屋内消火栓を使用しようとしたが、その使用方法をよく知らなかったり、起動ボタンを押さなかった等により、効果的な初期消火はなされなかった。
	<p><input type="checkbox"/> 消火しない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/> 	
④ 消火活動概要	<p>(消防上の支障・困難性等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○百貨店西側は国鉄軌道用地で、その両側も一面は工事中、一面は丸物百貨店に接していたため、東側の片面に集中部署せざるを得ないという地形的悪条件があり、加えて出火点が7階という高層火災であり、偉力を發揮すべき梯子車の伸梯が、トロリーバスの架線に阻害される等消防活動面でも種々の悪条件に悩まされた。 ○建物内は小区画が多く、開口部が少なく、排煙設備もないため濃煙熱気が長時間充満し、消防活動が徹底的に阻害された。 ○消防隊進入路の防火戸及びシャッターが施錠してあったため、先着消防隊の内部進入が阻害された。 		

	避 難 方 法	避 難 上 支 障 事 項																
⑤ 避 難 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ○階段を利用 <input checked="" type="checkbox"/> (人) ○エレベーター、エスカレータ利用 <input checked="" type="checkbox"/> (20 人) ○避難器具を利用 <input type="checkbox"/> (人) ○窓、開口部から直接地上へ <input type="checkbox"/> (人) ○救 助 <input checked="" type="checkbox"/> (2 人) ○その他(ヘリコプター利用) <input checked="" type="checkbox"/> (15 人) 	<ul style="list-style-type: none"> ○無 窓 <input type="checkbox"/> ○開口部の格子等 <input type="checkbox"/> ○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/> ○警報設備 <input type="checkbox"/> (管理不良、機能不良、未設置) ○停 電 <input type="checkbox"/> ○その他 <input checked="" type="checkbox"/> 																
	<p>○ 7階の最初の避難者は出火場所に居合せた数名であるが、作業員 2 名は建物南端に走り、足場パイプに飛び移って脱出した。又、保安課員と作業員の 2 名は階段に向ったが、シャッターで遮られ、危く屋外に出て 30 分後に梯子車で救出された。他の 70 余名の者達は、階段に集中し、集団となって地上へ避難した。</p> <p>○ 8 階は約 70 名が南北 2 群にわかれそれぞれ階段で避難(その内約 40 名は屋上へ避難)した。又、他の約 20 名がエレベーターを使用し地上へ避難した(7 階で立往生したエレベーターから 6 名が 8 階に現れ、階段で屋上へ避難)。</p> <p>○ 屋上には 8 階などから避難してきた者等を含め約 55 名いたが、ヘリコプターによる空輸により 15 人が救出され、残りの者は屋外階段により地上へ避難した。</p>																	
⑥ 死 者 の 状 況	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">健康人 7 名</td> <td style="padding: 2px;">避難上支障となった事項</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">(泥酔者 名)</td> <td style="padding: 2px;">○無 窓 <input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">要保護者 名</td> <td style="padding: 2px;">○開口部の格子等 <input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">〔乳幼児 名〕</td> <td style="padding: 2px;">○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">高齢者 名</td> <td style="padding: 2px;">○警報設備 <input type="checkbox"/> (管理不良、機能不良、未設置)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">身体不 名</td> <td style="padding: 2px;">○停 電 <input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">自由者 名</td> <td style="padding: 2px;">○その他 <input checked="" type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">〔病 人 名〕</td> <td></td> </tr> </table>	健康人 7 名	避難上支障となった事項	(泥酔者 名)	○無 窓 <input type="checkbox"/>	要保護者 名	○開口部の格子等 <input type="checkbox"/>	〔乳幼児 名〕	○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/>	高齢者 名	○警報設備 <input type="checkbox"/> (管理不良、機能不良、未設置)	身体不 名	○停 電 <input type="checkbox"/>	自由者 名	○その他 <input checked="" type="checkbox"/>	〔病 人 名〕		<ul style="list-style-type: none"> ○無 窓 <input type="checkbox"/> ○開口部の格子等 <input type="checkbox"/> ○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/> ○警報設備 <input type="checkbox"/> (管理不良、機能不良、未設置) ○停 電 <input type="checkbox"/> ○その他 <input checked="" type="checkbox"/>
健康人 7 名	避難上支障となった事項																	
(泥酔者 名)	○無 窓 <input type="checkbox"/>																	
要保護者 名	○開口部の格子等 <input type="checkbox"/>																	
〔乳幼児 名〕	○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/>																	
高齢者 名	○警報設備 <input type="checkbox"/> (管理不良、機能不良、未設置)																	
身体不 名	○停 電 <input type="checkbox"/>																	
自由者 名	○その他 <input checked="" type="checkbox"/>																	
〔病 人 名〕																		
	<p>○ 7 名(男)が死亡したが、7 階で 4 名、エレベーターシャフト内で 3 名が死亡したもの。</p> <p>○ 出火当時の 7 階は、必要以外のシャッターは閉鎖されており、火点周辺は、危険物品等の燃焼に伴う黒煙で覆われたため、4 名は避難路を見失ったものと思われ、厨房内で 3 名、シャッター際で 1 名がそれぞれ死亡している(特に厨房内の 3 名は、何らかの理由で相当遅れて火災を知ったものと推定される)</p> <p>○ エレベーターで死亡した 3 名は、出火時、2 階からエレベーターで 9 名が同乗して 7 階へ急行したが、扉を開けると濃煙が進入してきたため、再び閉めようとしたが、不能となり、さらにエレベータの運転も不可能となつたため、天井脱出口から上に登り、6 名は 8 階に避難できたが、1 名がプラケット上に宙吊りのまま死亡し、2 名が煙にまかれて意識を失い、エレベータピット内に転落死亡したものと推定される。</p>																	
IV 問題点・教訓等																		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 発災時に対処する百貨店側の初動態勢が不備で、自衛消防隊の活動が防火管理の実態に則さず内部的な通報連絡に終始し、初期の防災措置が放きされた。 2. 出入業者に対する防災指導、予防管理が不徹底であった。 3. 出火当時、入店者が約 300 人もありながら、だれ一人として通報せず、外部への火煙が噴出したのを国鉄職員が発見通報している等消防機関への通報が遅延した。 4. 自動火災報知設備が火災を表示しているのを確認していくながら、なお、現場確認のため奔走し、MM 式報知機のボタンすら押さず、早期通報設備が全く活かされなかった。 5. 室内の 7・8 階の防火区画シャッターは、作業の都合上半開きであり、更に開放したまま避難したので防火設備の価値を失い、他区画えも延焼せしめた。 6. 当該百貨店の建設工事は数期に分れ施行されてきたもので、当時の関係法令に適合していたが、全体としてのバランスに防災上幾多の弱点があった。 <ul style="list-style-type: none"> (1)背面が鉄道軌道というターミナルビルで、正面は地下駐車場の大工事現場、更にトロリーバスの架線が張りめぐらされていた。 (2)正面の一部無窓部分が排煙上あるいは消防隊の進入を阻害し、背面の一部開口部が普通窓ガラスのため容易に火炎突破をゆるし、電光ニュース盤の媒介物により火流を上階に伝走させた。 (3)内装(天井・壁体・間仕切り壁)が不燃化されていなかったため、延焼を早め、小区画が迷路となり、さらに開口部が少なく排煙設備もないため濃煙熱気が充满し消防活動が阻害された。 (4)スプリンクラー設備が皆無であった。 																		





(国鉄・鉄道軌道)

